

## 市政懇話会「環境先進都市」部会（第5回）議事概要

日 時：平成22年8月31日（火）14：50～16：30

場 所：鳥取市役所本庁舎6階第1会議室

出席者：【委員】下石義忠部会長、谷尾洋介副部会長、池長綾子委員、池原良行委員、宇津原エミ委員、手島秀光委員、八村輝夫委員、三谷信子委員、吉村あけみ委員

【鳥取市】環境下水道部加藤部長、林務水産課井上課長、生活環境課山本補佐、生活環境課中林主査、都市環境課坂本係長

【事務局】枅谷

### 《意見交換》

#### 1 温室効果ガス削減の取組について

〈資料1の説明〉：環境下水道部加藤部長

#### ○委員

- ・施設、設備などにより温室効果ガスを削減することも大事であるが、事業者の中でマネジメントシステムを推進すれば、会社自体が従業員を教育することになる。
- ・そうなれば、その会社で働く従業員も家庭の中でマネジメントを実施するので、そういった取組も必要ではないかと思う。
- ・前回お聞きしたところでは、例えばTEASについて、環境基本計画の中に目標件数が書いてあるが、そのデータは、どうも県のデータのようなものである。市としては取り組んでいないと。
- ・やはり市としても、TEASであろうが、ISO14001であろうが、目標を掲げて推進していただきたいと思う。そうすれば、環境に対する教育が全体に広がって行くのではないか。

#### ○委員

- ・資料の中に太陽熱発電のシステムのことが載っている。本庁舎の改築についての記事を見たが、この際、市役所の屋上に太陽熱発電システムを設置すれば、温室効果ガスが2%ぐらい削減できるのではないか。
- ・そのような取組を是非構想の中に入れていただきたい。環境の学習にも使えると思う。
- ・補助は国の方からしっかりもらいながら、そのような取組も構想にしっかり入れてもらうようにして欲しい。

#### ○委員

- ・東京の区役所だったと思うが、水洗トイレに雨水を利用している例があった。
- ・管理も大変かもしれないが、そのようなものも併せて考えてはどうか。

#### ●環境下水道部加藤部長

- ・確かに有効に使えると思うが、入ってきたものを今度は下水道で処理しなくてはいけ

ない。

- ・ただ、確かに新しい水を使う必要が無いので有効利用になると思う。
- ・下水道で処理した水をトイレに使い、再利用するところもあるようである。
- ・限りある資源を有効利用することは重要である。

#### ○委員

- ・日本はまだ水が豊富な国であるが、シンガポールは大変厳しい。
- ・オーストラリアでは、タンクで水をもらって帰っているそうである。

#### ○委員

- ・国では、温室効果ガスを90年比で6%削減であったが、最近では25%削減だといっている。鳥取市の取組にも削減目標が書いてあるが、それはどの段階に合わせた取組か。
- ・25%削減のためには、相当な取組をしなければならない。それが、これに反映されているのかどうかをお尋ねしたい。

#### ●生活環境課山本補佐

- ・今定めている計画は、事務事業編で、以前定めたものであり、市役所の中で取り組んでいるものが主な内容となっている。
- ・これから策定しようとしているのが、鳥取市全体で何%削減していくか。これを今年、来年で計画を策定するという事になっている。
- ・その中では、短期計画、中期目標、長期目標のそれぞれに目標を設定し、長期目標では、2050年度までに60%から80%削減するという目標が定められている。
- ・ただ、それは全体での話であるので、その中で鳥取市がどれくらい削減していくのかというのは、これから具体的に考えていくことになると思う。

#### ○委員

- ・今までの考え方を改めないと難しいと思う。
- ・今年決められるとのことだが、このようなことをしようというような概略は頭はないのか。

#### ●生活環境課山本補佐

- ・まだこれからというような状況である。

#### ○委員

- ・鳥取市では、プラスチックごみはどのような処理をしているか。

#### ●生活環境課山本補佐

- ・まず家庭で分別していただいて、船木にある「いなばエコ・リサイクルセンター」で処理している。
- ・これは、鳥取県東部行政管理組合が因幡環境整備（株）に委託して実施しているもの

であるが、そこでリサイクルしている。

- ・そして、次の段階で容器包装リサイクル協会というものがある。これは、各事業者が負担金を出し合ってプラスチックの処理をしていくためにある。
- ・鳥取市が回収した分は、ペールというものでプラスチックを圧縮して、梱包すると。ここまでが行政の仕事である。
- ・その次に、それを更に加工して、ペレットというつぶつぶの状態にする。これは容器包装リサイクル協会が、業者に入札されて、因幡環境が窓口として行っている。敷地内にある別の棟の工場でそれを実施されている。
- ・そのペレットは、今度は因幡環境がいろんな業者で再生されているという状況である。

#### ○委員

- ・地下に埋めるということはやっていないのか。

#### ●生活環境課山本補佐

- ・平成17年頃の話かとは思いますが、詳しくは分からない。

#### ○委員

- ・一番リサイクルで難しかったのが木綿だったのだそうだが、最近木綿のリサイクルが可能となったらしい。日本では、リサイクル出来ないものが無くなったという話を聞いた。
- ・ただ、そこまでは取り入れていないと。

#### ●生活環境課山本補佐

- ・取り入れていない。リサイクルというのはいいことであるが、それに伴うコストが高く、エネルギーも消費する。それから、市民の方に、どこまで分別していただけるか。
- ・リサイクル技術が出来たからと言って、それでは取り組もうということに至るまでには、市民の理解と協力が必要である。

#### ○委員

- ・今後、そのようなこともできるようになるかもしれないと。

#### ○部会長

- ・家庭から出るプラスチックごみは、処理する方としては、どのような状態で出すのが望ましいか。

#### ○委員

- ・水洗いをして出すということが普通か。

#### ●生活環境課山本補佐

- ・水洗いもきちっとしすぎると、かえって水資源の浪費となる。
- ・分別の説明会などでは、食器を洗う程度と説明している。それでも汚れがとれない場

合は、可燃物として出してもらえない。固形物が無いぐらいの状態であれば、プラスチックで出していただくと説明している。

#### ○部会長

- ・可燃物の中で、食べ物に関する可燃ごみ。それと、紙類については、新聞とか雑誌とかはいいが、封筒などの紙のごみなどはどうするか。

#### ●生活環境課山本補佐

- ・極力古紙の方に出していただきたい。

#### ○部会長

- ・そのことをもう少しPRすれば、減量化につながるのではないかな。

#### ●生活環境課山本補佐

- ・説明会では、やって欲しいことを2つ説明している。
- ・1つは生ごみの水切り。もう1つ紙ごみは、段ボールなどはもちろんのこと、ティッシュペーパーなども極力古紙で出してもらおうこと。そのようなことを説明している。

#### ○委員

- ・ただ、ホッチキスなどが段ボールについている。あれをとるのは結構手間である。

#### ○委員

- ・ペットボトルのふたなども今は回収している。ペットボトルのふたも、醤油のふたでも何でもいと集められ、それを米子のエコマ商事などが椅子などに変えているが、その段階でも、手処理が入るようである。
- ・作業所の方たちなどが分別されるようであるが、分別はかなり大変
- ・なので、一番基になる家庭がきちっとしないと大変だということはある。
- ・さっきプラスチックの話があり、プラスチックが小さい棒になるが、プラスチックに発泡スチロールが入っているようである。
- ・業者が回収されたら、発泡スチロールは別に分けられて、それ自体は別のリサイクルの会社に行くのだそうである。
- ・分別の枠を別にするのなら、プラスチックと発砲スチロールは分かるので、分けたら少し違うのかなと思う。
- ・それからティッシュペーパーの箱だとか、例えばカレーの箱だとか、ああいうものは全部古紙で出している。もちろん出すのは町内の廃品回収
- ・集落では、婦人会、子ども会、学校。そのようなところが、いい具合の仕組みで集めてくれるので、市のステーションに出さなくてもいいぐらいのサイクルで、きちっと回ってくるのでありがたいと思っている。
- ・そのような手間で、そこでもお金が入ってくる。

#### ●生活環境課山本補佐

- ・市から補助金もでている。

○委員

- ・今はごみは何分類か。

●生活環境課山本補佐

- ・9分別13種類

○委員

- ・県外の優秀なところは20ぐらい分別している。

○部会長

- ・佐治では、新聞紙とダンボールを指定している。

○委員

- ・そのような癖がついたらそのようにする。習慣である。
- ・家庭の中でも主婦だけでなく、男性も出した時点でチェックすることが重要である。

○委員

- ・子どもも夏休みはごみを出す係を引き受けている。勉強しているのだと思う。

○委員

- ・レジ袋はいらないと言われたお客さんには、何かしてあげたいと思う。
- ・以前気高町では、カイちゃんスタンプ会というものが、いりませんと言われたお客さんに小さいスタンプを1つ提供していた。スタンプ会がお金を出してやっていた。
- ・市の方で、そのような補助金とか助成とかはやっていないのか。

●生活環境課山本補佐

- ・市の方では、そのような助成は行っていない。それぞれの事業所などが行っている。

○委員

- ・小さい商店でも、レジ袋はいらないというお客さんにスタンプをあげられたりということをやっていた。
- ・もしそういうようなものに助成でもあればと思ってお尋ねした。

○委員

- ・スーパーでポイントを付けられたりということをやっている。

●生活環境課山本補佐

- ・大きなところは事業者が行っている。次は個人事業者。その段階になれば、何か考えないといけないかもしれない。

○委員

- ・レジ袋は、最近レジで必ずいるかどうか聞かれる。あれは大事なことだと思う。
- ・今ではコンビニでも聞かれる。少しずつ浸透している気がする。

○委員

- ・コンビニなどでの心配は、マイバックだと万引きなどが分かりにくいということもあるようである。
- ・それが一番難しいところであり、徹底もし難いのではないか。

○委員

- ・コンビニの話が出たが、コンビニのゴミ箱にはいろんなものが捨てられていて最悪だということである。
- ・それとジャスコ辺りだと、3月ぐらいには自転車がたくさん放置されているらしい。大学生ではないかということだったが。また、駐車場には猫が捨てられていたこともあったらしい。
- ・モラル以前の問題である。普段から分別するような人はそんなことはしない。

○委員

- ・家から出た9号線で、毎朝ごみが散らかっている。

○委員

- ・ごみの入ったごみ袋をそのまま置いてあるのを見かける。
- ・風などで飛んできた状態ではなく、明らかに置いたものである。

○委員

- ・湖山川の土手もそのようなものばかりである。食べ残しをそのまま捨ててあるものも多く、回収すると非常に臭い。

○委員

- ・そのようなルールはきちんを条例で定めてあるのか。

●生活環境課山本補佐

- ・ポイ捨て禁止条例はある。ただ、ごみ袋の状態ですべて置いてあるものであれば、それは不法投棄であり、法律上の問題となる。

○委員

- ・条例にあるのなら厳しく取り締まる必要があるのではないか。

○委員

- ・通報するのも逆恨みなどを考えると怖い。その辺は難しい。

- ・市でもポイ捨て監視員を置いているが。

#### ○委員

- ・監視員を置いても、タイミングよく捨てる人もいないし、監視するだけでは無理
- ・そうすると、監視ではなく、「見回りパトロール回収員」みたいなものを置かないと。ある程度補助を厚くしてでも。
- ・ごみが置いてあるのを見るだけになってしまう。川などを見回ると必ず毎日ごみが流れてくるそうである。

#### ○委員

- ・草が多いところや、生い茂っているところ。このようなところは必ず捨ててある。
- ・ただ、草が刈ってあるところは捨てられない。

#### ○委員

- ・きれいにしていると逆心理が働く。

#### ○委員

- ・いろんなものが出てくる。布団も出てくる。布団、タイヤ、自転車、テレビ、ラジオ。日用品はすべて出てくる。

#### ○部会長

- ・モラルなどそういう問題もある。

#### ○委員

- ・いずれにしても、25%削減のための地域計画を市で策定していくと。

#### ●生活環境課山本補佐

- ・その中で、これから行政が取り組むこと。事業所で取り組んでいただくこと。市民の皆さんに取り組んでいただくこと。これらを整理して示させていただきたいと思っている。

#### ○委員

- ・県の中でも、事業者・県民が取り組むべき責務などが書いてある。ただ、そう書いてあったらその言葉のみ。何らかの拘束力が必要ではないか。もちろんいろんな問題もあると思うが。
- ・必ずやって欲しい。やらなければならないこと。そういったものがないと、ただ、言葉の羅列で終わってしまうような気がする。

#### ○委員

- ・ただ、罰則などは無理だと思うので、啓発するしかないと思う。

## ○部会長

- ・それでは、もう1つの「湖山池の水質浄化」ということで、意見交換したい。

## ○委員

- ・下水道がまだ完備していないということがあったと思うが。

## ●環境下水道部加藤部長

- ・湖山池の水質浄化をするために、湖山池沿線にある住宅の下水道処理をするということで、基本的には7割はできている。
- ・福井、松保、三山口など、集落排水で整備しているところは100%整備は済んでいる。
- ・あと、公共下水で整備するのが、都市部、湖山の西側。山陰線が通っている辺りから鳥大にかけて、布勢の辺りまで。これらが公共下水のエリアになる。
- ・鳥大を挟むエリアまで、それから大寺屋の辺りまでは、大分整備が進んでいるが、そこから先の辺りや、布勢の山王団地。あの辺りが済んでいない。
- ・コカコーラウエストパークやあの辺りの県道付近は大分済んでいる。
- ・残っている山王団地付近は、遺跡があり、調査でなかなか進んでいない。
- ・下水道の本管は大分進んでいるが、縦坑を掘る部分をすべて調査しないとイケないということなかなか時間がかかっている。
- ・政権交代があり、地震対策などの安全・安心の部分は、事業費がたくさんつくが、下水道の面的な整備には、なかなか事業費がつきにくい。
- ・大分進んではいるが、まだ出来ていない部分もあり、その部分で湖山池に負担をかけている。
- ・処理水も湖山池に排出しているのでも、窒素・リンが増加すると言われる方もいる。
- ・吉岡クリーンセンターを高度処理化するため、平成21年度から23年度まで工事を行っている。
- ・工事が済めば、処理水も今よりきれいになると思う。

## ○委員

- ・湖山池については、地域住民ということで、県や市の方の話聞く機会もあった。
- ・水門を開放し、塩分濃度を上げるということについては、県は実験中だと言っていたし、市は進めていきたいと言っておられた。
- ・それはそれでいいが、今実際、ヒシがたくさんあったりとか、水温が上がりアオコがいっぱい発生したりして、湖山池は非常に悪い環境にある。
- ・水門を開けないとイケないのではというような話を皆でしていた時に、千代川は現在賀露港に流れていっているが、昔は千代川の水が直接湖山川に来ていた。そこを遮断して、海水だけになったというような経過がある。
- ・昭和20年頃にGHQが来て米軍が上空から撮った写真があったが、きっちり川が蛇行していた。それで湖山川の方に流れていっていた。
- ・そのような環境にあったので、自分の小さい頃は、湖山池はスイカのような匂いがし



ていた。そんなすごく環境のいい状態だった。

- ・もちろん泳いだこともあるし、蜚もいた。
- ・しかし、いつの日かそこが閉ざされ、水門ができ、淀んだ、富栄養化した川となってしまった。
- ・そのような姿を歴史を考えながら見ていくと、やはり、基本に戻ってもらいたいという気持ちがある。千代川の水を何とか湖山川に流入して欲しいなあと思う。海水ではなく。
- ・なかなかそのようなことを言う人もいない。反発もされる。しかし、もとはそうだった。
- ・なぜ閉ざしたかと言うと、まっすぐに河口に向かって川を改善しなければ、川は氾濫し、水害が起こる。人間の都合だけでやっつけてしまっている。
- ・川も人間が作った川になってしまって、いつの日か湖山池も汚くなった。
- ・もちろん生活排水もあっただろうし、下水の未完備の問題もあったと思うが、長い歴史がある。長い歴史を、今から簡単には戻せない。
- ・どうしてそうなったかということをもっと知っていただきたい。そこから進めていただかないといけない。
- ・海水だけ入れたら何とかなるというような安易な考えではいけないと思う。

#### ○委員

- ・下水が完備すれば変わってくるかもしれない。昔はアシがあって浄化していた。

#### ○委員

- ・湖山川にも実は水が湧いているところがある。

#### ○委員

- ・魚の状況はどうか。

#### ○委員

- ・魚も臭い。1月とか2月の寒ブナなど、食べることができるときは限られている。石がまでとっているときはいい。その頃は実際にきれい。夏が良くない。
- ・実際にカヌーに乗ってみて欲しい。アオコの汚さにはびっくりする。

#### ○委員

- ・結局富栄養化でアオコやヒシが発生しているのか。

#### ●環境下水道部加藤部長

- ・結局閉鎖性の水域になってしまった。
- ・昔は先ほど言われたように、千代川にいったん水が出ていて、ある程度塩水と真水が混ざった水が、湖山池に出たり入ったりしていた。汽水湖のちょうどいい具合のバランスがとれていたと思う。
- ・河口を付け替えることによって、日本海に直結するようになり塩分濃度が上がった。

- ・それで、樋門を閉ざして、塩分濃度をある程度管理するようになったが、そのような状況になってから、だんだん今のような状況になってきた。

○委員

- ・ヒシはものすごく繁殖しているが、ハスは全滅してしまった。

○委員

- ・ヒシでハスがダメになったと聞いた。

○委員

- ・ヒシとハスはゾーンが全然別である。

●林務水産課井上課長

- ・福井のハスは、減った原因が定かではない。

○委員

- ・湖山川はサンマートの所を流れるか。

○委員

- ・流れる。

○委員

- ・非常に汚いので、あれが何とかならないかと思う。きれいになればまた少し状況が違ってくと思う。

○委員

- ・12月から2月ぐらいまでの湖山川は比較的きれいである。

○委員

- ・あれはやはり住民運動などできれいにしていかないといけないと思う。

●環境下水道部加藤部長

- ・今までは、漁業者や農業者、市民の方などを含めて湖山池百人委員会などで会議をやってきたが、なかなか解決しない。
- ・今年は、市長の方から改めて汽水湖化を推進するという表明があった。汽水湖化と言っても昔の状況にはなかなか戻らないが。
- ・状況が変わった中でどうしたらいいのかということで、県の方もシミュレーションということで言われているが、シミュレーションで本当に答えが出てくるのか分からない。
- ・湖山池会議というのも今年2回ほど会議を開いた。会議をしても解決するわけではないが、今までは百人委員会など、限られた人が集まった中でいろいろ議論してい

た。

- ・今年はまだ少し広く、湖山池の周りに住んでおられる方及び全体の鳥取市民の方に、このようなことをしてみたらどうかとか、いろんな案をお聞きしたりとかやってみたいということで、近々、今年の11月頃にアンケートをする準備をしたりしている。
- ・アンケートなので、無作為であるが、身近な人でアンケートの回答者になる人がおられれば、いい機会なので、いろんな意見を頂戴したい。
- ・専門家は専門家でやっているが、専門すぎるような状況で、一般的な市民の皆様の意見を聞かせていただいて、取り入れることができればというようなことも考えている。
- ・限られた農業者、漁業者や湖山池の周辺に住んでおられる人だけでなしに、湖山池が汚くなっているという意識を皆さんに持っていただきたいと思っている。
- ・何か対策をやろうと思えば、お金もかかってくると思うので、皆さんが意識を持っていただいている中で事業を進めていきたい。
- ・今ワーキングが2つあり、市民意識の醸成を担当する部会と、技術的な検討をする部会とあるが、鳥取市が中心となってやるのは、基本的には市民意識の醸成の部会である。
- ・皆さん方の意見を集約したり、湖山池が汚くなっているという状況を認識していただいたりしながら、進めていきたいので、御協力をお願いしたい。

#### ○委員

- ・ヘドロの浚渫の状況はどうか。

#### ●林務水産課井上課長

- ・ヘドロの浚渫は19年に終わった。
- ・浚渫してもなかなか効果が見られないということで、全体事業の半分ぐらいで終了した。

#### ○委員

- ・自分が生まれたのが東出雲町で、中海のほとりである。
- ・子どもの頃は赤貝を取りに行っていたが、それが一切なくなった。
- ・中海も水が汚れていて大変だったが、堤防をかけ、ヨシを植えて、今大分水がきれいになった。
- ・そのような取組は民間で実施している。
- ・ヨシには浄化作用がものすごくあり、魚の隠れ家にもなる。

#### ●環境下水道部加藤部長

- ・ヨシは生えているものをそのまま枯らしてしまうと、かえって汚くなるので、刈り取りも必要。短期間ではなかなか難しいが、それを継続することで効果が出てくる。

#### ○部会長

- ・いろんな取組をして、最終的に千代川の水を入れないといけないというような条件をつくる必要がある。

○委員

- ・鳥取港に行く道路ではなく、橋にすれば良かった。

●環境下水道部加藤部長

- ・そのような意見がたくさん欲しい。

○委員

- ・ホームページで意見を言うというようなことはできるのか。

●環境下水道部加藤部長

- ・紙で配るアンケートもあるが、ホームページでも意見募集したいと考えている。

○委員

- ・湖山池のこともいいが、山白川の改修のことが議論されていない。
- ・あのような深い川で実際に事故もあった。環境からしても市街地にはふさわしくないが、市の方では取組をしていない。今後の構想が聞きたい。

●環境下水道部加藤部長

- ・山白川は河川ということで、都市整備部と県の河川担当課の所管になるが、話は何回かしているようである。
- ・近隣の方からも、山白川を含めて道路をどうするのかという声もある。蓋をかけて道路にするのか、或いはせせらぎ空間のようなものにするのか。
- ・ただ、いろいろな問題もあり、動きかけては止まるということを繰り返している状況である。
- ・お金の関係も相当あり、山白川に何億も何十億もかけるのか。お金をかけたことで効果があればいいが。
- ・浸水対策上の問題であればまた違ってくるが、美観の問題、まちづくりの問題でもある。また、そこまでして、4車線化して交通量の確保をする必要があるのか。いろいろな問題もあるようである。

○委員

- ・私もレポートを出したので、市長にも声が届くようにして欲しい。

○委員

- ・緑の基本計画の中であるが、市内も緑が少なくなっている。県庁の横の緑地も半分は駐車場になるという話もある。
- ・わらべ館の横も広い駐車場になったが、木が一本も生えていない。
- ・ところどころに大きな木があると少し癒される部分があると思う。
- ・今日も福祉文化会館の横を通ってきたが、昔緑があったところも駐車場になっていた。
- ・だんだん緑がなくなっていると感じる。

- ・駐車場も大きな木があり、陰りがあるとほっとする部分がある。駐車場にも緑が必要な部分があるのではないかと思う。

●林務水産課井上課長

- ・片原駐車場は5層6階建てだが、全部鉄筋コンクリートになる。

○委員

- ・確かに緑は温室効果ガスの削減につながる。
- ・例えば、若桜街道、末広通りから行徳に延びる道など、木がアーケードに遮られて歪んでいる状態である。あの植え方はいかがなものか。また、今後アーケード以上に伸びたらどうするのか。

○委員

- ・伝聞であるが、そのようなところには大きくなり木を植えるとのことだった。
- ・また、大きくなると落ち葉の処理も大変である。
- ・片原などは小さな木を植えている。大きな木を植えようとしたそうだが、住民が反対したそうである。
- ・若桜街道では花を植えていて、あれはきれいである。

○委員

- ・あの花は補助金を出しているのではないか。

●林務水産課井上課長

- ・最初に取り組む時は補助金を出していたようだが、今は出していないのでは。

○委員

- ・せっかく植えたものがそのままというのは問題である。

●環境下水道部加藤部長

- ・アーケードと植栽は相反すると思う。植栽のところだけアーケードにするとかも考えられる。

○委員

- ・木はどうしても手入れが大変である。

○委員

- ・切れば幹も大きくなる。

●林務水産課井上課長

- ・こまめに剪定するしかない。

## ○委員

- ・余裕が無いといけない。

## ●林務水産課井上課長

- ・皆さん総論は賛成であるが、街路樹1本植えるにしても、葉っぱが落ちる木はダメとか、大きくなる木はダメとか。各論で反対になる。
- ・道路整備して植樹柵をつけて植樹をするという時には反対はないが、実際に家の前に植樹柵を持ってきて植えようとする苦情がくる。
- ・その辺りが難しいところである。
- ・ただ、神戸市の震災の被害などでも、街路樹があつて、火事が飛び火しなかった例もあるので、あるに越したことはないと思うが、なかなか理解が得られないのが現実である。

## ○委員

- ・鳥取市の町並みを見ると電線が無くなってきれいになったと思うが、木はあまり茂っていない。木の種類に問題があるのかと思っていた。
- ・本当は住民が、花だけではなく、木の下に入ってコミュニケーションをとれたら、一番いい関係になると思うが。

## ○委員

- ・事前にシミュレートして、皆でその画面を見ながら議論できるといいが。

## ●環境下水道部加藤部長

- ・田園町のメガネの三城から西品治に行く道路であるが、もともとあった道には大きなケヤキが生えている。
- ・あのようなものを目指して道路を延長したが、いざ植栽しようとする直前になって、落ち葉が大変なので、やめて欲しいとの反対があつた。
- ・ケヤキは皆さんの同意がいただけず、ハナミズキになった。
- ・そのため、道路の半分から北側は大きなケヤキで、反対側はハナミズキということになっている。
- ・見る人は立派だなあと思うが、住む人には弊害がある。

## ○部会長

- ・「森林等の整備」や「整備をしすぎない身近な自然環境の維持・保全」などとあり、今緑に関する話が出ている。
- ・今は街なかの話が中心であるが、自分達が住んでいるところの話をすると、以前は手を入れていた山が放置状態になっていて、それに手を入れるということになると、なかなかお金がかかるので自分ではよくできないし、お金もかけることができないし、ということで、放置状態になっている所がかなり多い。
- ・竹林対策ということで、伐採をするような補助事業があつて、竹林対策の方は、大分進んでいるが。

- ・針葉樹を植えた山がなかなかうまくいかない。
- ・これは、鳥取市に補助金を出して欲しいとかいうことではないが、木に埋もれてしまうという感じになりつつある。
- ・道を通っていても、以前は見通しが良かった所が見えなくなったりもしている。
- ・大雨が降ったりすると、水害になったりということもある。
- ・以前、つく谷という集落があって、豪雨によって、大きなスギが谷側の民家の方へ流されたということがあった。作業小屋があり、何とかそこで止まってくれたが。
- ・最近では以前には無かったような大雨が集中的に降ったりすることがあるので、不安はある。
- ・山間部に行くと、かなりのところがそのような可能性があるのではないかと考えている。
- ・そのために、土砂の流出止めの堰堤を4か所も5か所も設置して、その対応をされた。
- ・それで、防ごうということになっているが、そのようなことが山間部では広がる可能性がある。
- ・CO<sub>2</sub>の吸収にはいいかもしれないが。

#### ○委員

- ・クマも大変である。

#### ○部会長

- ・クマは捕獲して放獣しないといけない。殺してはいけない。

#### ○委員

- ・森林整備には市は何か取り組んでいるか。CO<sub>2</sub>の問題でも、整備された森林と整備されていない森林では異なるようであるが。

#### ●林務水産課井上課長

- ・最初の話であったが、当初国が目標としていた90年比6%減のうち、3.8%を森林整備の中で、森林に蓄積させるということで対応しようということで、国の方では間伐事業を進められている。
- ・特に去年から始まった「みどりの産業再生プロジェクト事業」ということで、この3年の間に、約12億円の経費を投入して手入れの遅れた森林の整備をやっということで、千代川流域の関係でいくと約6億円ぐらいの経費が配当になっている。
- ・おそらく森林組合の総代会等で負担金はいらぬということで周知し、希望を募っていると思うが、なかなか手が挙がっていないのではないと思う。
- ・一番重要なのは、戦後に植えられたスギ、ヒノキがちょうど手入れをしなくてはならない時期。本来からすると伐採をする時期になっている。
- ・戦後65年経っているもので、通常であると40年から50年で伐採し、柱にしたりということを利用して必要がある。
- ・いま、材木の値段が非常に安いので、切って運搬する経費の方が、売値より高いということになってしまうと。なので、誰も切らない。
- ・今県も市もかさ上げをして、搬出する経費をいくらか助成しようと。それで売れば

トントンか少し利益が出るというような事業をしている。それで、多少なりとも利用が進んでいる状況である。

- ・ただ、鳥取県の東部に木材を大量に扱っていただける工場がない。これをすべて境港、或いは日南町の製材工場に持って行って買っていただくという形になっている。
- ・鳥取に製材工場があり、コスト削減を図り、木材を利用していただくのが一番いいが。
- ・今は円高になって、外材の方が安いので、外材が入ってきている。前年比に比べると20%から30%増えている。それまでは国産材がかなり流通していたが。
- ・林業自体が、大変グローバルな中に取り込まれてしまっている。
- ・皆さんが少々高いが鳥取、或いは智頭、若桜の材木を使うという銘柄指定をしていたかないと買っていただけない状況である。
- ・それと後、竹林の方であるが、放置竹林ということで、ほったらかしの竹林がどんどんはびこってしまう。1年で5m、10mは地下茎を伸ばすので。
- ・そうすると竹の子が出て、竹になると。そうすると、そこに生えていた在来の木が竹に覆われてしまうので、枯れてしまう。
- ・その整備のために、皆さんが1年間に市県民税の均等割りで500円納めていただいているが、それを活用した環境保全税の事業で竹林整備もさせていただいている。
- ・竹の子を生産するような元の竹林にするか、全部竹を切ってしまうと竹を生やさないようにするとか、竹を全部切った後にコナラとかクヌギとかの広葉樹を植えていただくとか。そのような事業を進めていただいているところ。それにも市も多少支援しているところである。

## ○委員

- ・この間熊守の人と話をする機会があったが、スギの木やヒノキをたくさん植えたことによって、ドングリの木などが切られてしまったと。それによって、クマの食べ物がなくなり、下界に下りてくることが多くなったと。スギの木やヒノキだけでなく、ドングリの木を植えて欲しいという声があった。
- ・池や湖でも、ブルーギルやブラックバスなどの外来魚が多くなっているが、湖山池でも手長エビがいなくなってしまった。
- ・そういったところも併せて対策を検討していかなくてはいけない。

## ●林務水産課井上課長

- ・外来魚の駆除もなかなか難しいが、釣る人からすると非常に面白い魚のようで、わざわざ堤に持って行って放される方もあった。本体いるはずのない堤に、ブラックバスやブルーギルがいるというような状態がある。
- ・ある堤は全部水を抜いて駆除したというところもあるが、湖山池の場合はそのようなわけにもいかない。
- ・今漁協が何か所か定置網を設けて、その中で入ってくる外来魚を一網打尽にしたりしているが、なかなか全部いっぺんに獲れるという状況にはならない。
- ・湖山池の塩分濃度を2,000ppmにすればいなくなるが。

以 上